

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2022年度版)

16 平和と公正を
すべての人に



人文社会学部の学部生が「難民支援はじめてガイド」を作成しました



活動の概要	<p>2022年9月、人文社会学部国際文化学科山本ゼミ所属の学部3年生が、難民問題の現状や名古屋圏での支援団体の情報などをまとめた「難民支援はじめてガイドin名古屋」というパンフレットを作成しました。</p> <p>【学生たちのコメント】</p> <p>私たちは、2022年の2月末以降、ロシアによるウクライナ侵攻によって避難民の方が来日されていることから難民支援について興味を持ち、難民支援という点から多文化共生を考えることをテーマにゼミの6人のメンバーでこの4月から活動を始めました。</p> <p>難民に関するイベントに参加する中で、支援団体の方々から「学生には難民問題についての情報を広めてほしい」という声を頂き、多くの人に難民問題に関心を持ってもらうため、支援団体と難民問題に関心を持つ人々をつなぐパンフレットを作成しました。難民問題の現状について理解しやすいこと、そして具体的なアクションに繋がりにくいことに拘り、難民に関する基本情報、名古屋市内の支援団体の紹介、支援方法などを掲載しています。</p> <p>また、2022年11月10日に、私たちは大学の講義内で「難民問題ワークショップ」を開催しました。参加者に難民問題への理解を深めてもらい、自分なりの意見を持ってもらうことを目的とし、まずは難民認定や支援状況についての説明をし、その後2つのワーク(ディベートとシミュレーション)を行いました。ディベートでは、自分なりの意見を持ってもらうことを目的に、「日本は難民受け入れを今後拡大していくべきか」というテーマで議論をしてもらいました。またシミュレーションでは、自分事として捉えてもらうことを目的に、シリア難民が日本に来るまでの困難を考えてもらいました。</p> <p>参加者へのアンケートからは、ワークショップを通じて難民問題への関心度や理解度が上がった人が多いことがわかり、難民問題に関わるきっかけ作りができたのではないかと考えています。参加者から出た多様な意見を知ることで、私たちが新たな考え方を学ぶことができました。</p>
活動の時期	2022年9月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/student/11291500/

人文社会学部の学生が中区安心・安全・快適なまちづくりフェスタ2022に出展しました



活動の概要	<p>2022年9月23日、名古屋市栄エリアのオアシス21で開催された「中区安心・安全・快適なまちづくりフェスタ2022」に、人文社会学部国際文化学科の山本ゼミが「遊んで学ぼう！多文化共生ってなに？」と題したブースを出展しました。当日は台風接近に伴う大雨にもかかわらず、3年ぶりの中区フェスタの開催に多数の人が来場し、多文化共生ブースではゼミ生が考案した2つのゲームを多くの方々楽しんでくれました。</p> <p>【神経衰弱ゲームチーム】</p> <p>私たちのチームは中区に多く暮らしている中国、韓国、ベトナム、ネパール、フィリピン、ブラジルの人々の国の文化を紹介するために、これらの国々と日本を合わせた7ヶ国の伝統食や伝統衣装について遊びながら学ぶ、神経衰弱ゲームを考えました。当日は、多くの来場者の方がブースを訪れ、神経衰弱ゲームを楽しんでくれました。なかには勝負に勝ちたくてもう一度挑戦したいと、再度ブースに来てくれるお子さんもおり、一時は列ができるなど大盛況でした。</p> <p>工夫した点は、神経衰弱のゲームを楽しんでもらうだけでなく、神経衰弱のカードに書かれた各国の伝統食や伝統衣装を詳しく紹介したチラシを作成して配布したことです。これによって、来場者の方に様々な国の文化に触れてもらい、多文化共生の理解を深めたり、興味を持ってもらったりする手助けになったのではないかと思います。</p> <p>また、前に挙げた7ヶ国のうち好きな国旗を選んで、その国旗と一緒に写真撮影できるスポットも作りました。全体として、中区に住んでいる身近な外国住民の国の文化を楽しみながら知ってもらうことのできるイベントを行うことができました。</p> <p>【やさしい日本語チーム】</p> <p>やさしい日本語チームは、来場者にやさしい日本語に実際に触れて考えてもらうための「体験型紙人形劇」を実演しました。その人形劇のストーリーは、日本語が苦手な方が、生活するうえで目にする看板などの意味がわからずに困っているところを、来場者に看板の文章をやさしい日本語に変換してもらって、助けてもらうという、来場者も参加し体験してもらう形にしました。やさしい日本語をより身近に感じてもらうことを目標にして、病院や学校など、多くの人が過ごす日常生活にフォーカスを当てて、いくつかのパターンのお話を制作しました。</p> <p>ブースには老若男女問わず多くの方が来てくれて大変盛り上がり、運営していても楽しかったです。しかし、そこで気づいたことは、やさしい日本語の認知度は想像よりも低いということです。そのため、今回のイベントを通して、一人でも多くの子どもたちや大人の方に、やさしい日本語について、単に知ってもらうだけでなく考えてもらうことができ、とても良い機会となりました。</p>
活動の時期	2022年9月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/human/student/10211430/

芸術工学部の学部生が名古屋市選挙管理委員会と協働 で選挙参加推進のための動画を制作しました



活動の概要	名古屋市選挙管理委員会と本学芸術工学部の学生が協働で若者の選挙参加啓蒙のコンテンツを制作しました。 18歳の若者の選挙参加推進のためのオリジナルコンテンツです。
活動の時期	2022年6月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/sda/news/20220708/

救急車のラッピングをデザインしました



活動の概要	<p>東部医療センターと西部医療センターの救急部から、芸術工学研究科の鈴木賢一教授の研究室に「地域に愛される救急車のラッピングデザイン」の依頼がありました。救急車としての緊急性と地域医療を担う信頼感と愛着をどうデザインするか、現場の職員の皆さんの意見を伺いながらゼミ学生3名と手探りの検討を行い、東部は同じ区内の動物園の人気者、レッサーパンダとロゴマークを用いた蝶々の組合せ、西部（赤ちゃんにやさしい病院）はカンガルーケアから着想を得てカンガルーと2011年に取り組んだヘルスクエアアートに用いた三角形の組合せでラッピングデザインを制作しました。街中でレッサーパンダとカンガルーを見かけたら、あたたかく見守ってください。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年5月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.44

令和4年度 財務諸表等を公開しました



活動の概要	令和4年度（2022年度）の財務諸表等のデータを公開しました。 詳細は下記の関連URL（財務諸表等）をご確認ください。
関連URL	財務諸表等